

人権コラム 心、豊かに

◆ありのまま

2学期一。制服に身を包み自転車や徒歩で通学する生徒の姿が街に戻ってきました。

その制服が「ズボンかスカートか」たったそれだけの見た目を基準に男女を区別することは、果たして正しいことでしょうか。

全国では、生徒自らが制服を自由に選択できる学校が徐々に増えています。例えば「上着は全員同じブレザー」「ズボン、スカート、リボン、ネクタイは自分で選べる」等々。これまでも、寒さ対策として女子がズボンを選べる学校もありましたが、今は性的少数者への配慮から性別を問わず制服を選択制とする動きが高まっています。

人の性には「心の性」と「身体の性」そして「恋愛対象の性」があり、心と身体の性が必ず一致するとは限りません。そして、心と身体の性が一致しない生徒にとって、自分が認識している性とは異なる制服を着て学校生活を送ることは、強い違和感やストレスをもたらし、ひいては不登校の要因となることもあります。

近年では、性的少数者やLGBTに併せ『アライ(A l l y)』という言葉も聞かれるようになってきました。日本LGBT協会のホームページによると、アライは【正しくはストレートアライ。自分はLGBTでは無いけれどLGBTの人たちの活動を支持、又は支援している人たちのこと】とされています。

そして、そのような活動、支援の可視化を図るため、レインボーグッズを身に着ける人も増えています。性的少数者のシンボルカラーとして世界的に使用されている『6色のレインボー』は、性の多様性を表すとともに「多様性を守る」という思いが込められたカラーです。言い換えると性的少数者のみならず、広く全ての人の「ありのまま」を守る気持ちを表現しています。

学校や社会には、集団生活の秩序を守るため一定のルールや約束が存在します。各学校のルールであり、伝統のひとつである「制服」を変えることは容易ではなくとも、互いの多様性を認め合い、誰もがありのままの自分でいられる配慮や環境づくりについて行動を起こすことは、社会に巣立つ若者の人権意識の芽生えにつながるはずです。